

2020年6月20日

医療法人啓清会 関東脳神経外科病院  
倫理委員会委員 各位

申請者 片山 夏海

## 審査申請書

下記について、審査を申請します。

### 記

1. 課題名	破裂脳動脈瘤におけるクリッピングとコイリング後の転帰
2. 研究者所属氏名	医療法人啓清会 関東脳神経外科病院 看護部 外来手術室 看護師 片山 夏海
3. 研究の目的及び意義	<p>当院では、くも膜下出血の患者に対し、出血後、72時間以内に外科的治療、クリッピング術、血管内治療、コイリング術を行っている。これらの再出血予防、処置を行うにあたって、対象の年齢、脳動脈瘤の部位や形状、合併症などを総合的に判断し治療方針を決めている。そこで今回、実際にコイリング術、クリッピング術を行った対象を調べることで転帰を比較することが出来ると考えた。</p> <p>破裂脳動脈瘤、破裂後72時間以内にクリッピング術、コイリング術を行った症例の在院日数、転帰を比較。</p>
4. 研究の実施方法と実施にあたっての倫理上の問題点	<p>研究期間中にくも膜下出血で入院してきた該当患者を対象に外科的治療のクリッピング術を行った症例と血管内治療のコイリング術を行った症例を調べそれぞれの転帰の違いを調べる。</p> <p>本研究は後ろ向き研究のため、インフォームド・コンセントは行っていないので、オプアウトで対応する。</p>
5. 研究実施期間	2016年6月から2020年6月の4年間
6. 研究の実施場所	関東脳神経外科病院 外来・手術室

# 破裂脳動脈瘤におけるクリッピングとコイリング後の転帰

## 研究計画書

医療法人啓清会 関東脳神経外科病院 看護部 外来・手術室 看護師

研究代表者 片山夏海

第1版 作成年月日：2020年6月20日

## 1. 研究名称

破裂脳動脈瘤におけるクリッピングとコイリング後の転帰

## 2. 研究実施体制

本研究は以下の体制で実施する。

1. 研究責任者 関東脳神経外科病院 看護課 外来・手術室 看護師長 山岸浩
2. 研究分担者 関東脳神経外科病院 看護課 外来・手術室 看護師 片山夏海  
関東脳神経外科病院 看護課 外来・手術室 看護師 椎名恵
3. 個人情報管理者 関東脳神経外科病院 病院長 清水暢裕
4. 外部解析機関 なし

## 3. 研究背景・動機

くも膜下出血には重度障害以上の予後不良例が 40%存在しており、その発症予防並びに治療は重要な問題である。また、出血後 72 時間以内に行った早期手術はそれ以降の手術よりも在院日数を短縮できると言われている。

当院では、くも膜下出血の患者に対し、出血後、72 時間以内に外科的治療、クリッピング術、血管内治療、コイリング術を行っている。これらの再出血予防、処置を行うにあたって、対象の年齢、脳動脈瘤の部位や形状、合併症などを総合的に判断し治療方針を決めている。そこで今回、実際にコイリング術、クリッピング術を行った対象を調べることで転帰を比較することが出来ると考えた。

## 4. 研究の目的及び意義

破裂脳動脈瘤、破裂後 72 時間以内にクリッピング術、コイリング術を行った症例の在院日数、転帰を比較。

## 5. 研究の期間及び方法

### (1) 研究実施期間

2016 年 6 月から 2020 年 6 月の 4 年間

### (2) 研究のアウトライン

研究期間中にくも膜下出血で入院してきた該当患者を対象に外科的治療のクリッピング術を行った症例と血管内治療のコイリング術を行った症例を比較。

### (3) 研究のデザイン

調査・量的研究。後ろ向き観察研究。

(4) 研究の実施方法

研究期間中にくも膜下出血で入院してきた該当患者を対象に外科的治療のクリッピング術を行った症例と血管内治療のコイリング術を行った症例を調べそれぞれの転帰の違いを調べる。

(5) 目標症例数

100 から 200 症例

(6) 目標症例数の設定根拠

年間 30 から 40 症例あるため

(7) 調査項目と試料・情報の収集方法

電子カルテの診療録・看護記録

**6. 評価項目**

- ①入院後、外科的治療：クリッピング術、血管内治療：コイリング術を行った対象患者の年齢、動脈瘤の場所の比較
- ②外科的治療：クリッピング、血管内治療：コイリング術治療後の在院日数、転帰

**7. 研究対象者の選定方法**

(1) 選択基準

期間中に外科的治療：クリッピング術、血管内治療：コイリング術を行った症例

(2) 除外基準

なし

**8. 研究の変更、中止**

(1) 研究の変更

本研究の研究計画書などの変更または改訂を行う場合は、あらかじめ関東脳神経外科病院倫理委員会の承認および病院長の許可を必要とする。

**9. インフォームド・コンセントを受ける手続き等**

(1) 研究内容の公開（オプアウト）

目的を含む研究の実施についての情報を関東脳神経外科病院のホームページに掲載すること、また研究員の連絡先を明記することで研究対象者が拒否できる機会を保障する。

(2) インフォームド・コンセント

本研究は後ろ向き研究のため、インフォームド・コンセントは行っていないので、オプアウトで対応する。

10. 個人情報の取り扱いと匿名化の方法

本研究で取り扱う試料・情報等は、個人情報管理者が匿名化したうえで研究・解析に使用する。匿名化の方法については、誰のものか一見して判別できないよう、本研究で取り扱う情報から個人を識別できる情報を削除し、独自の符号を付す作業を行う。個人情報と符号の対応表には、個人情報管理者が厳重に保管する。また、本研究の成果を学会発表及び論文発表する際には、研究対象者の個人を特定できる情報は一切使用しない。

11. 研究対象者に生じる負担並びに予測されるリスク及び利益、これらの総合的評価ならびに当該負担及びリスクを最小化する対策

(1) 予測される利益

くも膜下出血対象患者の年齢、脳動脈瘤の形状、部位に対してクリッピング術、コイリング術を選択するのか。医師がどう考え、治療を行うかを看護師サイドで予測し、対象の個別に合わせたより良い看護が期待できる。

(2) 予測される危険と不利益

なし

12. 試料・情報の保管および廃棄の方法

研究対象者の本研究終了後に継続する通常診療において活用される従来の診療情報については、医師法等の関連法規に従い保管する。本研究の実施のために匿名化され取得した研究関連情報については、研究責任者の所属する部署家の外部から霧がなされたコンピューターのハードディスク内に保存する。情報をとり扱うコンピューターを明日ワード管理し、情報の紛失・遺漏等に十分配慮した取り扱いのうえで保管を行う。

本研究終了後において、本研究で得られた研究対象者の情報を他の研究において使用することはない。研究責任者は、研究終了後、研究等の実施に係るデータ及び文書を研究の中止または終了後少なくとも5年間、あるいは研究結果発表後3年が経過した日までの間のどちらか遅い期日まで保存する。その後、個人を特定されないよう処理したうえで廃棄する。なお、通常診療に用いる医療情報の保管・廃棄は医師法等の関連法規の規定に従うこととする。

### 13. 研究期間への長への報告内容及び方法

- (1) 研究の実施の適正性若しくは研究結果の信頼を損なう事実等の情報を得た場合  
研究責任者は、研究の実施の適正性若しくは、研究結果の信頼を損なう事実若しくは情報または損なうおそれのある情報を得た場合は、速やかにその旨を当該病院長へ報告する。
- (2) 研究の倫理的妥当性もしくは科学的合理性を損なう事実等の情報を得た場合  
研究責任者は、研究の倫理的妥当性若しくは科学的合理性を損なう事実若しくは情報または損なうおそれのある情報であって、研究の継続に影響を与えると考えられるものを得た場合は、遅滞なくその旨を当該病院長へ報告する。
- (3) 研究終了（中止の場合を含む）の報告  
研究責任者は、研究終了したときは、その旨及び研究の結果概要を文章により病院長へ報告する。
- (4) 研究に用いる資料及び情報の管理状況  
研究責任者は、得られた情報等の保管について、必要な管理を行い、管理状況について病院長へ報告する。

### 14. 研究の資金源等、研究機関の研究に係る利益相反及び利益等、研究者等研究に係る利益相反に関する状況

- (1) 研究資金  
なし
- (2) 利益相反  
なし

### 15. 研究に関する情報公開の方法

本研究の成果は病院内発表を予定している。

### 16. 研究対象者及びその関係者からの相談等への対応

研究対象者及びその関係者からの相談については、以下の相談窓口にて対応する。

#### [相談窓口]

研究責任者

関東脳神経外科病院 看護課 山岸 浩

〒360-0804

埼玉県熊谷市代 1120

TEL : 048-521-3133

17. 委託業務内容及び委託先の監督方法

本研究における委託業務なし

18. 使用文献

なし